

2.研究懇談会活動報告

1)構造系研究懇談会報告

回数	開催日	テーマ／講演者	参加人数	講演概要
1	7月20日	現場見学会／お茶の水「WATERRAS」	25名	駿河台キャンパスの周辺は大規模な都市、建築の再開発が続々と進行中である。特に淡路町二丁目西部地区の開発事業は「自然環境の向上」「文化交流の育成」「安全・防災」をテーマにした話題のプロジェクトであり、建設中の現場を見学した。
2	12月11日	学位論文取得記念講演会及び祝賀会/金田勝徳、佐久間順三	167名	平成23年度学位取得者の記念講演会を実施した。併せて、祝賀会を開催した。講演タイトルは以下のとおりである。 金田氏:「最下層柱脚の損傷防止を目的とする新しい柱脚機構を用いた中低層鉄骨ラーメン構造の耐震性能」 佐久間氏:「既存木造住宅耐震補強の費用対効果の試算」

2)海洋系研究懇談会報告

回数	開催日	テーマ／講演者	参加人数	講演概要
1	9月28日	仕事を通じて前川國男から何を学び、その目で「旧前川邸を語る」／前川建築設計事務所 相談役 中田準一様	約130名	近代建築の巨匠・前川國男の設計思想や作品の変遷・特徴を振り返りながら、昭和の名建築・旧前川邸のオリジナルの姿、増改築の歴史、江戸東京たても園への移築・保存方法などについて、多数の図面や写真を用いて、学生にもわかりやすく、具体的に解説をしていただいた。

3)計画系研究懇談会報告

回数	開催日	テーマ／講演者	参加人数	講演概要
1	10月1日	「一住宅一家族のゆくえ」 難波和彦×山本理顕	54名	MU建築週刊の関連事業で行われた建築学特別講義。近代家族と住居の在り方について、難波氏と山本氏にトークして頂いた。参加者は、主に計画系の大学院生。
2	1月25日	「スウェーデンの住環境と背景」 筒井英雄	68名	スウェーデンの住環境、特に住宅について、社会的背景を織り込みながら解説して頂いた。参加者は、主に計画系の4年生と大学院生。講演会后、参加者を含めて懇親会を行った。

4)材料施工系研究懇談会報告

回数	開催日	テーマ／講演者	参加人数	講演概要
1	5月12日	「建築仕上材料の耐久性評価及び寿命予測について」 大島 明((財)建材試験センター) 「生コンクリートの製造と流通の実態」 斉藤 丈士(日本大学生物資源科学部)	40名	現在の日本工業規格等においては、特定の材料を除いて十分な長期耐久性を担保されているとはいえない。この原因はひとえに耐久性を評価する場合に、実使用を忠実に再現できる適切な促進試験方法がないことにある。そこで本講演では建築材料に要求される耐久性を整理し、かつその評価方法及び予測について紹介。一般にあまり知られていない生コンの製造工程や設備について紹介する。また、生コンは独特の流通形態がとられているので、そのメリットやデメリットを含め実態を紹介。
2	9月1日	「第37回研究講演会」 ①「研究講演会」 応募者有志 ②「懇親会」	44名	最近公表された研究成果を発表・紹介。
3	12月22日	「アメリカにおけるプロフェッショナルエンジニアの活動と社会的評価」 笠井政之(Technical Management Support, LLC) 「不易流行」 植村哲士(野村総合研究所)	46名	日本のエンジニアは不自由である。アメリカのプロフェッショナルエンジニア(PE)と比べると役割も責任もかなり異なる。アメリカに25年前に渡り、構造設計PEとして活躍している経験を踏まえて、その実態を紹介。 人口減少によって引き起こされるRC造への量的・質的な需要変化に対応には、「モジュール化」、「リユース」、「構造の標準化」「リサイクル」などの対策が必要である。RC造における「変わらないもの(不易)」、「変わっていくもの(流行)」を見極めながら、4つの方策に基づいた社会に要請されるRC造を具現化するための技術開発の必要性について事例を踏まえて紹介。
4	3月16日	平成25年度定例会計画 笠井芳夫賞(優秀修士論文賞)表彰式ならびに笠井芳夫賞受賞修士論文発表会 懇親会	35名	平成25年度の定例会の予定決めを行う。 平成24年度笠井芳夫賞表彰式行い、受賞学生に修士論文を発表・紹介。 笠井芳夫賞受賞者を囲み、その門出を祝う。

5)環境技術系研究懇談会報告

回数	開催日	テーマ／講演者	参加人数	講演概要
1	10月25日 (木)	福島県における復興に向けての住環境形成への取り組み 日本大学工学部建築学科 浦部智義	30名	郡山市にある研究室として、震災後の木造仮設住宅の建設に携わってこられた経験から、「仮設住宅」・「地域コミュニティや二地域居住」・「再生可能エネルギー利用」・「復興住宅」などへのお考えをお話いただきました。